



群馬大学

群馬大学基金

2024年度 事業報告書

あなたの寄附が
群馬大学の未来を創る

群馬大学基金への御支援に対する御礼



国立大学法人 群馬大学長

石崎 泰樹

皆様には、日頃から群馬大学へ温かい御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様のおかげで、2024年度も経済的困窮学生に対する奨学金給付や留学経費の補助、被災した学生への支援金の給付といった学生支援事業を行うことができました。今後も学生が経済的な理由で修学を諦めることのないよう、支援を継続してまいります。

また、本学は「駆けろ未来へ150年の歴史と共に」のスローガンのもと、食健康科学に関する新しい価値を生み出す、

教育・研究の拠点を整備する構想を進めております。

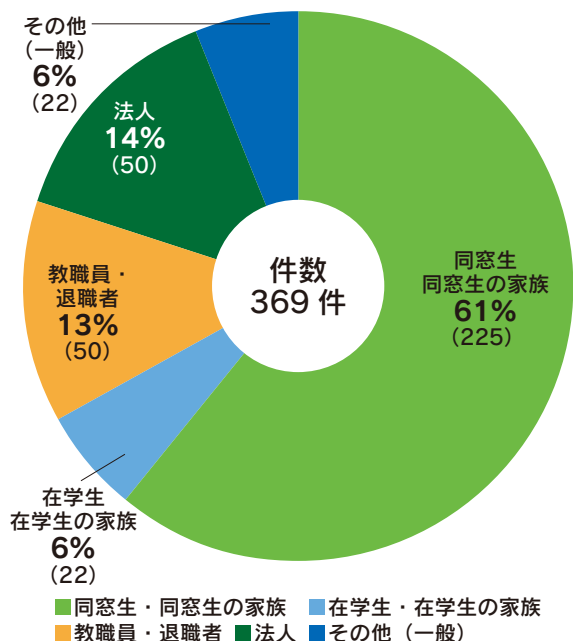
2025年4月には、食健康科学研究科を開設し、産業振興や健康長寿社会を創出する人材を育成するとともに、食を通じて健康を科学することや食に関わる健康増進に関する研究、食の生産・流通・消費に係る環境の健全性や社会の健全性の維持・学内外の研究者や産業界、地域の自治体関係者が集い、その成果を地域・社会に還元するオープンイノベーション施設の建設を目指しています。

皆様の御賛同を頂くとともに、格別の御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

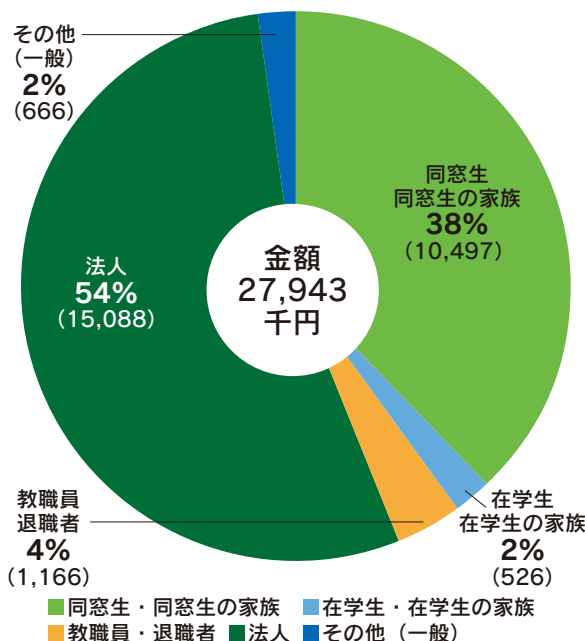
今後も、本学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」の実現に向けて、努力して参る所存です。引き続き群馬大学基金に御支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

寄附者と群馬大学の関係

2024年度寄附者区分別の寄附件数



2024年度寄附者区分別の寄附金額



食健康科学研究科の開設



食健康科学研究科

本学は大学院食健康科学研究科を2025年4月に開設し、群馬県の産業の強みと本学の研究の強みを活かして、食の視点から環境・社会・人の健康を目指したイノベーションを促進しています。群馬県は食料品関連産業が重要な役割を果たしており、地域資源を活かした食品製造業が活発です。大学の強みは異分野融合の「食健康科学教育研究センター」にあり、理工学、医学、保健学などの専門家が連携して食健康科学を研究しています。この研究科では、食品科学や医科学などを基盤に、高度な科学リテラシーを身につけ、産業振興や健康長寿社会を創出する人材を育成します。



群馬大学基金の2024年度の活動を事業ごとに御報告します。

(1) 学生の修学支援に資する事業

①経済的困窮学生に対する修学支援給付事業

▼奨学金として20万円を大学院生12人に給付（総額240万円）

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付いたしました。

御寄附をいただいた皆様に感謝し、社会に貢献できる学生を育ててまいります。

▼修学支援金給付を受けた学生の声

理工学府 1年生

この度は、心温まるご寄附を賜り、誠にありがとうございます。皆様のご支援により、学業や就職活動に一層励むことができ、大変感謝しております。現在は仙台を拠点に研究活動を続けておりますが、兵庫の放射光施設での実験や群馬大学への訪問も多く、旅費が自己負担となることもございます。その際、いただいた寄附金を一部交通費として活用させていただいており、拠点に縛られることなく研究を進める上で大きな支えとなっております。また、群馬大学での多くの出会いと皆様のご支援のおかげで、ますます群馬大学が好きになりました。皆様からのご厚意に報いるため、今後も精進してまいります。改めて、心よりお礼申し上げます。

理工学府 1年生

この度は修学支援金の給付対象に選んでいただきありがとうございます。また、群馬大学基金に寄附していただいた方々のおかげでこの支援金をいただけるため非常に感謝します。土日1日中アルバイト、平日は毎日朝から夜まで研究室という日々にとっても疲れていました。この支援金で生活費がだいぶ賄えるためとても嬉しいです。また、金銭的に余裕が生まれるので、研究や勉学に励めます。この度、この支援金のことを初めて知りました。この支援金のおかげで生活できる学生はたくさんいると思います。群馬大学で多くを学び、学びを活かせる研究職などに就き、私も支援する側になりたいと思いました。この度は本当にありがとうございます。この恩を忘れず励んでいきます。

情報学研究科 1年生

この度は日頃からのあたたかいご支援に加えて、多大なご支援をいただきまして有難うございます。寄附いただいたご支援で、あらゆることに挑戦し、より一層自身の成長のために、精一杯努めてまいりたいと思います。また自身が無事修了し、今後も社会の中で生活していくうえで、社会発展に貢献できる人材として成長できたと自覚できた際には、次は自身が学生たちの応援をすることができればと考えております。少しでも早く社会発展に貢献できるように精進してまいりますので、今後とも温かい目で見届けていただければと思います。

情報学研究科 1年生

このたびは支援金の寄附をありがとうございます。私は学習と研究を続けるために大学院に進み、学部生の頃から継続して大学院でも自分の興味のある分野を探求しています。最近では就活に割かれる時間や費用も増え、大学での研究と就活、一人暮らしの生活を両立する上で、支援金は大きな支えになります。寄附していただいた支援金のおかげで、残りの学生生活でも学習や研究に集中して取り組むことができます。ご支援してくださった方々への感謝を忘れずに勉学に努めてまいります。そして、これから社会人になって社会に貢献していくために、今後も励みます。最後になりますが、ご支援してくださった全ての方々に重ねてお礼申し上げます。

②留学経費補助事業

グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、国際交流や留学意欲のある学生に対し、海外派遣のための奨学金を支給しました。

▼ポーランド平和学習プログラム

渡航先：ポーランド（2025年2月28日～3月10日）

情報学部情報学科 2年 永井 怜

この度は留学費用を援助して頂き、ありがとうございました。このプログラムでは、私がずっと行ってみたいかったアウシュビッツ・ビルケナウ博物館に行くことができました。非常に貴重な経験ができたなと思いました。また、他の活動として現地の大学であるヤギェウオ大学とワルシャワ大学と交流することができ、多くの人と出会うことができました。ヤギェウオ大学では、日本語学科の学生と交流することができ、日本語で日本やポーランドについて話すことができ、非常に楽しい時間でした。外国語を話せる人達をみて、自分ももっと英語やその他の言語を学びたいと思いました。ワルシャワ大学では、ウクライナ・リヴネ人文大学から駆けつけた学生たちも加わって、平和についてディスカッションしたり、平和についての講義を英語で聞いたりと学ぶことが多く、充実した時間になりました。ポーランドは美しい景色で溢れ、人は親切で素晴らしい国でした。またポーランドに行けるように、このプログラムで学んだことを糧に精進致します。



ウクライナの大学生と撮った写真



アウシュビッツ・ビルケナウ博物館で撮った集合写真

▼ウーロンゴン大学短期英語研修

渡航先：オーストラリア（2025年2月22日～3月29日）

医学部保健学科 1年 西脇 小雪

この度は、群馬大学基金により留学経費を補助していただき、誠にありがとうございました。私は本研修で初めての海外を過ごし、学びの多い研修となりました。

午前中はネイティブの先生から英語の文法だけでなく、オーストラリアの歴史、音楽、文化、食など多くのことを学び、実際に現地で生活する中、肌で多様性というものを感じることができました。複数の言語を話せるという人が多く、多様な文化が共生していくには相手に対する理解と尊敬が必要であると感じました。

午後はプロジェクトワークで、性教育について現地の学生に直接話しかけ、アンケートに答えてもらいました。日本とオーストラリアを比較し、性教育に対する理解やSNSから正しい情報を得ることができているのかなどをグループで考察を考えました。アンケートによって、意外な調査結果が得られ、留学したからこそその新しい発見がありました。

今後は本研修での経験を活かし、多様なバックグラウンドを持つ人々へのケアを自分なりに考えていきます。このような貴重な経験をさせてくださった皆様に心から感謝申し上げます。



ホストマザー&ルームメイトと

▼ウーロンゴン大学短期英語研修

渡航先：オーストラリア（2025年2月22日～3月29日）

理工学部電子・機械類 3年 青木 菜々子

この度は、留学経費をご支援いただき、誠にありがとうございました。5週間の語学研修を通じて語学力の向上に加え、自分の視野を大きく広げることができました。ウーロンゴン大学では、現地の先生方による英語の授業を受け、言語だけでなく、オーストラリアの社会課題や歴史、自然環境など、現地ならではの学びを得ることができました。

また、「自動運転技術による交通課題の解決」をテーマにしたプロジェクトワークにも取り組み、現地の大学生にインタビューを行いました。多くの学生が自動運転技術に対して不安を抱いていることが分かり、今後の技術発展における課題が明確になりました。

さらに、ホームステイでは現地の文化に直接触れることができ、ホストファミリーとの交流を通じて会話力も向上したと感じています。

この経験を通じて国際的な課題への関心が高まり、将来の目標がより明確になりました。貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。



クラスの仲間と

▼ポーランド平和学習プログラム

渡航先：ポーランド（2025年2月28日～3月11日）

情報学部情報学科 4年 富田 寧麻

この度は、海外研修に伴い、群馬大学基金による留学経費補助事業の御支援をいただき、誠にありがとうございます。本研修を通して、海外の文化や考え方に触れると共に、平和について深く考えるきっかけを得ることができました。

本研修では、アウシュビッツ・ビルケナウをはじめとする博物館や、ワルシャワ大学、ヤギェウォ大学を見学しました。ポーランドの歴史やユダヤ人の歴史、文化を学ぶことができ、宗教的、哲学的な思想や、歴史的な背景を肌で感じるすることができました。

大学の授業に参加した際には、日本語学科の学生と、英語と日本語を交えて会話し交流することができました。ヤギェウォ大学の講義に参加した際には、日本、群馬県、群馬大学についてプレゼンを行いました。シベリア孤児記念小学校においても、現地小学生に向け同様のプレゼンを行い、互いの文化やイメージについての意見交換を行うことができました。

奨学金を利用させていただいた身として、感謝を忘れず、本留学で学んだことを大学生生活や将来に還元できればと思います。



プログラム参加者の集合写真

(2) 大学運営全般に係る事業

①グローバルチャレンジプログラム

学生が自ら企画したユニークかつ個性ある海外での活動に、最大50万円を支給するプログラムです。審査で選ばれた学生に奨学金を支給しました。

▼英国ホスピスと仏国高齢者施設の実習から欧州の緩和ケアに迫る ～誰もが平等に、望んだ最期を迎えられる社会をめざして～ 渡航先：イギリス・フランス（2025年2月10日～3月7日）

医学部医学科 5年 荒川 智成

群馬大学基金よりいただいたご支援のもと、欧州における緩和ケアを学ぶべく、英仏の2か国にてそれぞれ2週間現地実習をして参りました。

イギリスのホスピス2施設では、緩和ケア専門医の回診や他の医療職の病棟業務に同行したほか、スピリチュアルケアリストも同席する多職種連携会議や心理社会的会議に参加しました。心や体に限らず周囲の社会や個人の死生観等がもたらす全人的な苦痛について、職種の垣根を越え活発に議論を交わす様子が印象的で、異なる文化や宗教への寛容さと配慮を強く感じました。また市民ボランティアへのインタビューや、在宅患者さんとご家族への電話対応、訪問診療の同行などを通じ、地域住民との連携や、ホスピスが持つ役割と重要性についての知見を深めることができました。

フランスの要介護高齢者施設では各医療・介護職の業務への同行と、フランス発祥のケアの実践を行いました。歩行や食事といった日常生活における自立支援の重要性と、具体的なケア技法について学ぶことができました。

最後になりますが、私にこのような貴重な学びと経験をくださった、群馬大学基金の寄附者の皆様と御協力いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。



イギリスのホスピスの医師たちと



フランスの施設の職員たちと

▼治らないから治るへ 1型糖尿病完治への第一歩 渡航先：シンガポール（2025年2月16日～3月29日）

医学部保健学科 3年 大澤 瑚桃

今回の留学では、シンガポール国立大学で1型糖尿病に関わる幹細胞の研究について勉強させていただきました。実験の説明を聞き実際に見学させていただくことで、1型糖尿病の研究について理解を深めることができ、説明の中で疑問点があれば、質問をするなど積極的に参加しました。ラボセミナーにも参加し、研究室内でどのようなプロジェクトが動

いているのかを把握することで、将来の自身のテーマを考えるきっかけとなりました。また、研究科全体のセミナーでは、糖尿病に関する知識だけでなく、シンガポールという多文化社会・多国籍国家の在り方も知ることができ、国際的な視野を広げることができました。さらに、論文読解とパワーポイントスライドの作成にも挑戦し、一つのことを最後まで成し遂げられたことに喜びを感じました。全体を通して、グローバルチャレンジプログラムは自由度が高く、自分の行動力や適応力を高めることができるプログラムだと実感しました。



ATラボのみなさんと

最後になりますが、このような貴重な機会をくださいました群馬大学基金の寄附者の皆様、ご支援ご協力いただいたグローバルイニシアチブセンターの先生方をはじめとするすべての方に心より感謝申し上げます。

▼日本の多文化共生を推進させるための知識と経験を獲得する

渡航先:ベトナム・ネパール (2024年4月14日～2025年1月20日※一時帰国期間含む)

共同教育学部 3年 齊藤 和希

私は今回、ベトナムとネパールにおいて、技能実習生や小学生を対象に、日本語教育と異文化理解をテーマとした授業を実践しました。ベトナムでは、80名以上の学生に対して模擬試験とアンケート調査を実施し、語彙力や文法力は一定の水準に達している一方で、聴解と読解に大きな課題があることが明らかになりました。ネパールでは、日本文化を紹介する授業を通じて、子どもたちが日本に親しみを抱くようになり、授業後には「日本に行ってみたい」と語る姿も見られました。いただいたご支援のおかげで、渡航費や現地での交通費、教材費を十分にまかなうことができ、現地での活動に専念することができました。



群馬大学と連携した日本文化理解授業の様子
(ベトナム)

この経験をもとに、帰国後は在日外国人支援や多文化共生をテーマとした教育活動に取り組んでいます。今後は、地域社会と在日外国人とをつなぐ国際交流イベントの開催や、日本語教育支援の場を広げながら、持続可能な共生の仕組みづくりに努めてまいります。また、群馬大学の学生として、自ら学び続けるとともに、社会を支える一員として行動してまいります。温かいご支援をくださった群馬大学基金の寄附者の皆様に、心より感謝申し上げます。



全校朝礼で挨拶をしている様子
(ネパール)

(3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

重粒子線治療を開始して15周年を迎えました

群馬大学重粒子線医学研究センター センター長 大野 達也
副センター長 田代 睦

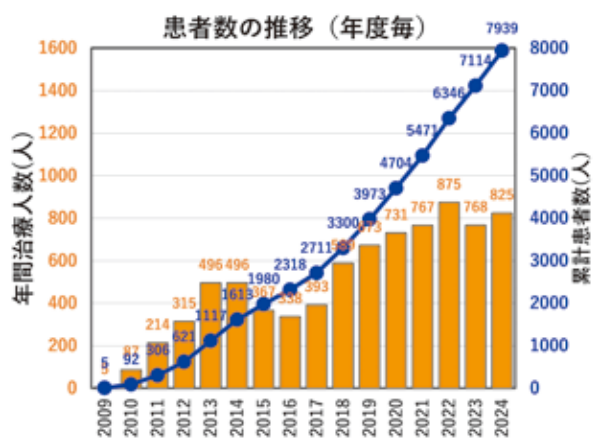
群馬大学の重粒子線治療は、2010年3月に先進医療として始まり、今年で15周年を迎えました。本学の治療施設では、患者さんに最善の医療を提供することを使命とし、これまで多くの方々に治療の機会をお届けしてきました。本治療は厚生労働省による定期的な先進医療技術の評価を経て、国内では2016年に骨軟部腫瘍が初めて保険適用となり、2018年には前立腺がん・頭頸部がん、2022年には肝細胞がん・肝内胆管がん・局所進行膵がん・手術後の大腸がん再発・子宮頸部腺がん、そして2024年には早期肺癌・局所進行子宮頸部扁平上皮癌・悪性黒色腫と、対象疾患が着実に広がっています。

この進展に伴い、本学の治療を受ける患者さんの数も年々増加しています。図のように、これまでのべ7,900名が治療を受け、年間の治療患者数は800名に達し、そのうち約9割が保険診療による治療を受けています。より多くの方々にとって、重粒子線治療が身近な選択肢となってきています。

保険適用疾患の拡大により、今後さらに多くの患者さんがこの治療を必要とすることが予想されます。この重要な医療を確実に提供し続けることは、本学の使命であり、そのためには、治療環境の整備、新技術の研究開発、そして医療従事者や研究者の育成が不可欠です。現在、治療チームの増強を計画し、より多くの患者さんに治療を提供できるよう準備を進めています。

治療施設の正面には、東京2020オリンピック・パラリンピック記念の桜が植えられています(写真)。年々成長し、最近ようやく多くの花を付けるようになりました。この桜が美しく花を咲かせる姿は、私たちにとって希望の象徴です。

治療開始から15年が経過し、装置の大規模な更新が必要となる時期を迎えています。今後も安定した治療の提供を続け、より多くの患者さんに最善の医療を届けるために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



写真：東京2020オリンピック・パラリンピック記念樹の桜

(4) ウクライナ学生・研究者受入支援事業

今般のウクライナ情勢を受けて避難した学生及び研究者の教育研究活動の継続のため、生活支援及び日本語学習支援等を行いました。

共同教育学部科目等履修生 ポリナ

私は、2022年に日本に来て、群馬大学で日本語の授業だけでなく、さまざまな経験をする事ができました。彫刻の授業なども受け、彫刻は初めてやったのですが、とても面白かったです。私の一番好きな授業は邦楽器の授業で、箏が一番好きです。

安全な場所に来る機会を与えてくださった群馬大学にとっても感謝しています。良い人々や友だちに出会って、助けてくれる人にもたくさん会えました。今後も彼らとずっと連絡を取りつづけたいと思います。

群馬大学で「SVITANOK(スヴィタノク)」というウクライナ文化を紹介するセミナーやワークショップなどもおこないました。学生やたくさんの方がウクライナに興味を持ち、セミナーなどに参加してくれたことが、とてもうれしかったです。子供たちにもウクライナの文化や芸術を見せることができ、しあわせでした。

将来は芸術・美術を勉強したいと思っており、大学入学のために様々な試験や準備をしてきました。そして、4月からはドイツに行きます。今後どうなるか分からないので怖いですが、前向きに考えるようにしています。すべてがうまくいってデュッセルドルフの大学に行けることを願っています。

群馬大学から御支援をいただき、群馬ですばらしい経験をさせていただけたこと、私たちをサポートしてくださった教職員、その他すべての皆様に感謝します。

今後も、できるだけ日本とウクライナの友好のためにがんばりたいと思います。



ワークショップ「モタンカ（お守り人形 作り）」の様子

共同教育学部科目等履修生 マリア

この3年間、皆様の温かいご支援のおかげで、安心して学び、成長することができました。群馬大学の先生方、職員の皆様、奨学金やイベント等の支援をくださった皆様、そしてインターンシップでお世話になった企業の方々に心より感謝申し上げます。最初は日本ででの生活に不安もありましたが、皆様の励ましと支えがあったからこそ、乗り越えることができました。授業やウクライナに関する活動を通じて、多くの貴重な経験を積むことができました。先生方の丁寧なご指導のおかげで、日本語力も向上し、自信を持って会話ができるようになりました。また、異なる文化的背景を持つ友人たちと出会い、多様な価値観を学ぶことができました。さらに、インターンシップを通じて、日本の企業文化や働くことの大切さを実感しました。この経験は私にとって非常に貴重なものであり、将来のキャリアに役立つと確信しています。4月から情報学部で新たな挑戦を始めます。学びを深め、技術を身につけ、自分の夢に向かって努力し続けます。今後も皆様への感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張ります。本当にありがとうございました。



SVITANOK（ウクライナ文化等を紹介するセミナー）での講演

群馬大学創基 150 周年記念事業

～食健康科学のイノベーション拠点構想～

群馬大学は、1873年に設立された「小学校教員伝習所」から創基150周年を迎え、その節目を機に「駆ける未来へ 150年の歴史と共に」のスローガンのもと、新しい価値を生み出す教育・研究の拠点を整備することといたしました。

群馬県は豊かな農畜産業と首都圏へのアクセスの良さを背景に、食品産業が地域経済において重要な位置を占めております。一方、本学は食品科学、食品生産工学、医科学、保健学などを基盤にした食健康科学の研究を得意としております。そこで、高付加価値食品の開発、環境負荷の少ない食品生産・パッケージ、健康長寿や病気の予防に資する生活習慣、働く女性のヘルスケアなどを科学的なエビデンスベースで提案します。そのために、荒牧キャンパスに学内外の研究者や産業界、地域の自治体関係者が集い、その成果を地域・社会に還元するオープンイノベーション施設を整備し、食健康科学の新たな価値を生み出す一大拠点をつくる構想を進めております。

本学は厳しい競争環境や少子化などの直面する課題と向き合い、食健康科学を基軸にヘルスプロモーションを推進し、地域及び地球規模での、健康で幸福な社会の実現に貢献してまいります。この新施設の建設に対して、皆様の御賛同をいただくとともに、群馬大学基金に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

群馬大学は“食健康科学”を基軸に ヘルスプロモーションを推進します

～ 群馬大学の知の結集による人類と地球の持続的な幸福の実現に向けて ～

健康で幸福な未来社会を実現



新たな産業の創出

(エンバイロメンタルヘルス)

- 生分解性プラスチックを使った食品パッケージの開発
→海洋プラスチックごみ問題を解決

健康長寿社会の実現 女性の活躍推進

(ソーシャルヘルス)

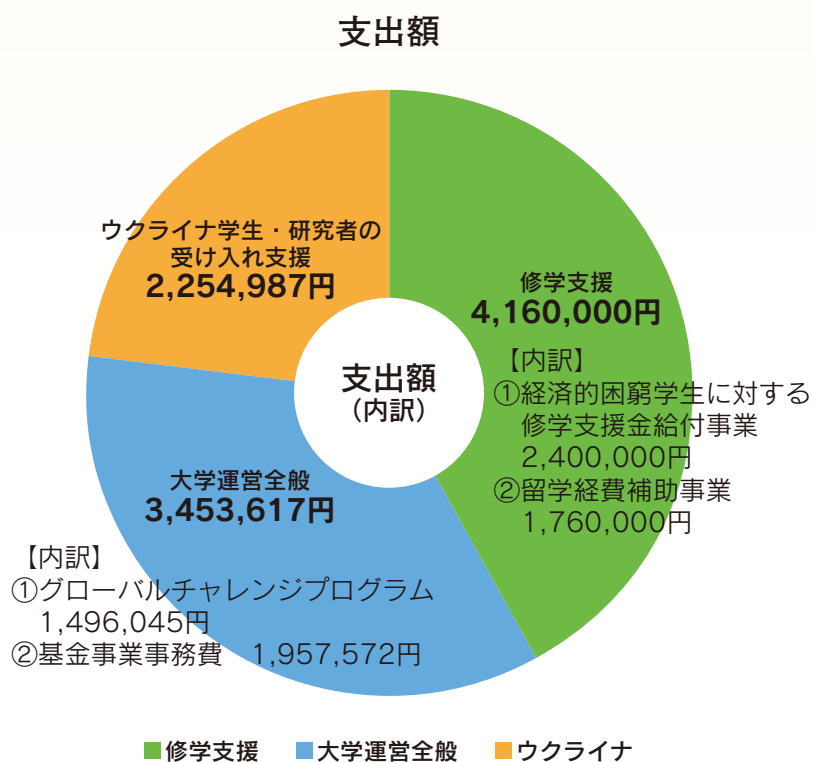
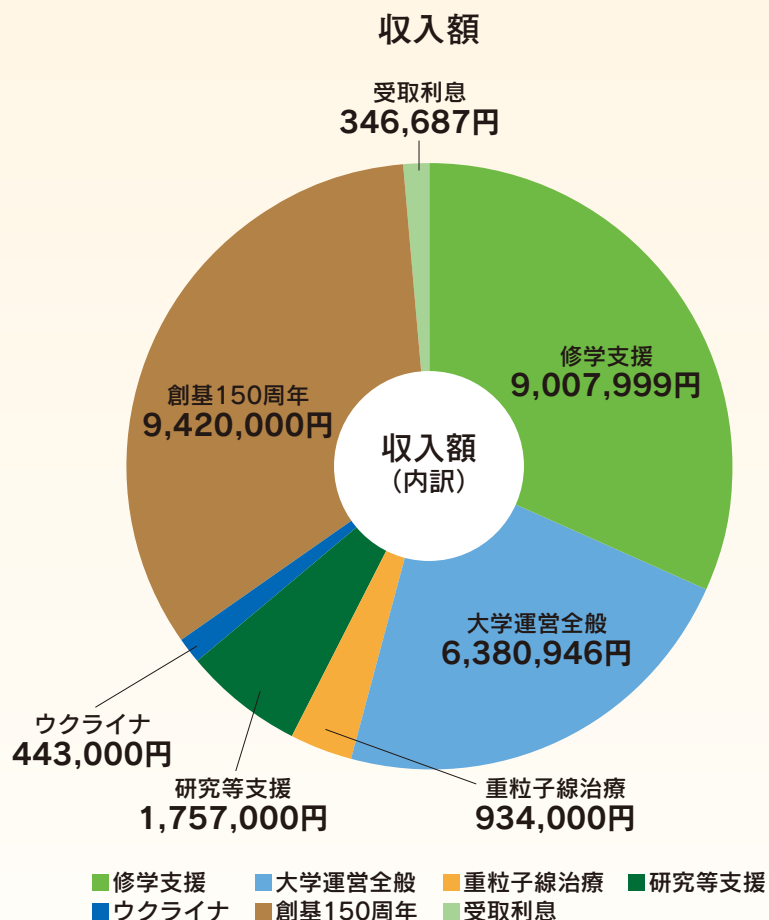
- 保健ビッグデータの解析
→生活習慣病、認知症、フレイルの発症リスク因子の特定
- 働く女性の食習慣に関する疫学研究
→大豆などの日本食の健康効果を科学的に証明&女性がさらに健康で活躍する社会へ

食による健康の維持・増進

(ヒューマンヘルス)

- 糖尿病・高血圧症・脂質異常症の発症機構の研究
- 腸内細菌叢の解析
→食生活による生活習慣病の新しい予防法の提案

2024 年度群馬大学基金収支決算書



群馬大学基金に御支援いただきありがとうございました。

2024年度寄附者の御芳名

御寄附いただきました皆様に深い感謝の意を込めまして、御芳名を掲載させていただきます。
※2024年4月1日～2025年3月31日の期間に御寄附のお申込みをいただいた法人・団体様で、お名前の掲載を許可いただいた法人・団体様のみを掲載しております。

法人・団体寄附者御芳名

(五十音順・敬称略)

あかぎ信用組合	医療法人社団昇龍会
株式会社アプリス	株式会社清芳亭
池下工業株式会社	株式会社ヤマト
伊勢崎ガス株式会社	株式会社大協精工
植木プラスチック株式会社	医療法人たばた小児科
邑楽館林農業協同組合	一般財団法人同愛会
医療法人至誠会大久保クリニック	東京パーツ工業株式会社
太田市農業協同組合	株式会社登利平
有限会社柏屋	株式会社日本キャンパック
株式会社協正金型製作所	株式会社野村建設工業
株式会社キンケン	株式会社原田
群馬大学共同教育学部 同窓会	星野総合商事株式会社
群馬トヨペット株式会社	丸三飲料株式会社
ぐんまみらい信用組合	MICシステム
小林工業株式会社	医療法人春光会宮久保眼科
相模屋食料株式会社	株式会社森エンジニアリング
山九株式会社	株式会社山口不動産
株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション	株式会社ヤマト
株式会社シイオ	株式会社ユタカ製作所
しげる工業株式会社	株式会社ヨーユーラボ
上武印刷株式会社	株式会社吉田鉄工所

匿名希望の法人・団体様 5法人・団体様

群馬大学基金による事業

皆様からご支援いただいた寄附金は、以下の事業で活用させていただいております。

- 学生の修学支援に資する事業
- 大学運営全般に係る事業
- 重粒子線治療の普及・発展に資する事業
- 学生等への研究等支援に資する事業
- 創基150周年記念事業



群馬大学基金

御遺贈による寄附について

御遺言により、財産を相続人以外の特定の人や団体に寄附することを「遺贈」といいます。

本学へ御遺贈いただきました財産については、原則として相続税が非課税となります。

なお、本学では、遺贈手続きの便宜を図るために、銀行と協定を締結しており、遺言書の作成、保管、管理などの煩雑な相続手続きを銀行が代行いたします。

また、相続された財産についても御寄附を承ります。

相続税申告期限内（被相続人が御逝去された翌日から10ヵ月以内）の御寄附については、本学が発行する領収書を添付して税務署に申告いただくことにより、相続税が免除されます。

遺贈や相続寄附をお考えの方は、基金係もしくは下記銀行までお問合せください。

寄附のお申込・払込方法について

■ 書面による申込み

1. 寄附申込書に必要事項を御記入のうえ、郵送又はFAX送信してください。
2. 振込用紙に必要事項を御記入いただき、金融機関窓口にてお振込みください。

本学所定の振込用紙により、以下の銀行からお振込みいただく場合、振込手数料は無料^{※1}となります。

○東和銀行 ○群馬銀行 ○三井住友銀行 ○ゆうちょ銀行

※1 ゆうちょ銀行で現金による振り込みを行う際は、別途加算料金がかかります。

■ インターネットによる申込み

群馬大学基金のwebサイトからお申込みいただけます。

群馬大学基金 Web サイト

群馬大学基金

検索

<https://kikin.gunma-u.ac.jp>



▶ クレジットカード決済

▶ コンビニ決済 ^{※1}

▶ 銀行振込決済 ^{※2}

※1 コンビニ決済は30万円以上の払込はできません。

※2 銀行振込決済は、銀行所定の振込手数料がかかります。

謝意の表明について

- 群馬大学基金WEBサイトでの御芳名の掲載
御承諾いただいた全ての方の御芳名を大学基金のWEBサイトや広報誌等に掲載させていただきます。
- 本学の情報誌等の送付 本学の活動をお知らせする情報誌等をお送りさせていただきます。
- 感謝状の贈呈 50万円以上の御寄附をいただいた方に贈呈させていただきます。
- 銘板への掲載
御寄附の累計金額に応じて、学内に設置する「基金寄附者銘板」に御芳名を刻まさせていただきます。
- 群馬大学オリジナルグッズの贈呈
寄附金額に応じて、本学オリジナルグッズを贈呈させていただきます。
※オリジナルグッズには、星野富弘氏（本学教育学部卒業）の作品を使用しております。
※オリジナルグッズは、変更となる場合があります。



お問い合わせ先

国立大学法人 群馬大学 総務部総務課基金係

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL 027-220-7018

FAX 027-220-7012

Email kikin@ml.gunma-u.ac.jp

URL <https://kikin.gunma-u.ac.jp/>





群馬大学

GUNMA UNIVERSITY